

## 県外派遣報告書

審判員名	竜田 雅史	所属	中体連	
大会名	平成29年度 第47回関東中学校バスケットボール大会			
期間	平成29年8月8日(火)～8月10日(木)			
会場	山梨県 小瀬スポーツ公園体育館 緑が丘体育館			
スケジュール				
期 日	内 容	場 所		
8月8日(火)	審判会議、1回戦	小瀬スポーツ公園・緑ヶ丘体育館		
8月9日(水)	2回戦、準々決勝	小瀬スポーツ公園体育館		
8月10日(木)	準決勝、決勝	小瀬スポーツ公園体育館		
会議 講義 内容				
<p>①挨拶 渡邊整関東審判長:この大会は、全国大会に繋がる唯一の大会であり、沖縄全中に向けて、それに携わる審判員としての自覚をもって取り組んでほしい。</p> <p>②レクチャー 指名審判員 埼玉県 北島 寛臣 氏「JBA プレイコーリング・ガイドラインについて」          JBAプレイコーリング・ガイドラインについて、ルールを選手、コーチ、審判が共有しなければならないためのものであり、映像を用いながら講義をして頂いた。          「1. 悪い手・腕・肘の整理(HAND-CHECKING含む)」、「2. スクリーンプレイ」、「3. ブロッキング・チャージング」、「4. プロテクトシューター」、「5. アンスポーツマンライクファウル」、「6. テクニカルファウル」、「7. フェイク(FAKE A FOUL)」、「8. トラベリング」、「9. ファイティング」について、1試合通して、ガイドラインに沿って、正しく判定していかなければならない。そのために、目の前で起こったプレイが、どの条件に該当するからこの判定を下したというものを明確に持つ。また、明らかなプレイなどに関しては判定を必ずするということが重視され、まずは審判の理解が必要である。</p> <p style="text-align: center;">指名審判員 群馬県 星野由貴 氏「マンツーマンディフェンスの推進・審判の対応」</p> <p>今大会は全試合2名のマンツーマン・コミッショナーを置いて試合を運営することになっており、事前に配付された「マンツーマン・コミッショナー運用マニュアル」との資料をもとに、具体的なケースの話も含めてお話しをいただいた。コミッショナーとコミュニケーションを取りながらも、原則的にレフリーはマンツーマン・ディフェンスについて関与せず、もし、処置が必要な時に対応をする。しかし、まずは審判員として、判定に集中することが大切である。</p>				
実技				
担当試合	期 日	平成29年8月8日(火)	男子 <b>女子</b>	一回戦
	対戦カード	立川五(東京) VS	吉田(山梨)	主審 <b>副審</b>
	相手審判	岩本 涼子 氏(神奈川県)		
ミーティング内容		主任 古畑 香子 氏(茨城県)		
<p>全体を通して、両チームのベンチ・選手がストレスなくゲームが進められていた。激しいコンタクトが少ない中で、丁寧に見ながら、リードで右側に行くケースも多く良かったが、それ故に、ラストプレーが見えにくくなるものもあるので、今後吟味をしてやる。</p> <p>技能が未熟なので、基準は難しいが、明らかにミートが遅いものは、ガイドライン通り取るべき。また、シュータープロテクトの考えから、着地で際どいのが、お互いの距離が遠い場所であったので、分担を明確にさせると良い。</p>				

担当試合	期 日	平成28年8月19日(水)	男子 女子	二回戦
	対戦カード	深川第一(東京) VS 小山城南(栃木)	主審	副審
	相手審判	吉田 和樹 氏(群馬県)		
ミーティング内容		主任 佐田 幸一 氏(山梨県)		
<p>1Qから、プライマリーを意識して、判定をしていた中で、リバウンドやルーズボールなど、接触が大きいものを、笛を鳴らすことがあったが、どうしても責任がお互いにあり、笛を鳴らすことが出来ないものもあるので、仕方ないけど笛を鳴らすもの、仕方ないけど鳴らせないものを、自分の中でしっかりと理由付け出来る情報を持っておくと良い。</p> <p>TOが不安の中で24秒やファールの管理をやっていたのに、ピリオド終了のアウトオブバウンズでタイマーが笛の前に止めてしまったケースの処置は、タイムアップにして終わらせたが、もっと工夫して、スムーズに処置出来るように、プレー以外のことも審判の責任として管理していくようにすると良い。</p>				
全体の感想				
<p>今回昨年に引き続き、2回目の関東中学校大会へ派遣させて頂き、昨年から1年間の活動の成果を発揮しようという強い気持ちで臨みました。よい緊張感の中、試合に取り組むことができ、判定に関しても、様々な方からアドバイスを頂き、今後の改善点が明確になり、次につながる大会になったと思います。昨年も感じましたが、中学生のグレーが多くなりがちなプレーをしっかりと白黒見極め、判定する力の凄さというのを多く体験出来たと同時に、まだ微妙な判定を瞬時に決断できない自分の弱さも、痛感しました。より正しく強く判定をする為に、今以上に日頃から審判活動して、判定に対して、もっとこだわりと正確性を持たなければいけないと感じ、今後自分の課題をより明確にして、次のステップに向けて日々精進していきたいと思えます。</p> <p>最後になりましたが、お世話になりました開催県の山梨県審判員の皆様に感謝申し上げます。また、ご指導いただきました関東協会の渡邊整審判長をはじめ、派遣されたました関東ブロックの審判員の皆様、そして今大会に埼玉県として、派遣をしてくださいました北島寛臣審判長をはじめ、埼玉県協会の皆様や、ご指導して下さる先生方に感謝申し上げます。今後とも、より一層の努力をして参ります。</p> <p>ありがとうございました。</p>				